

平成28年度 第1回 南丹市放課後児童健全育成事業運営委員会 議事録

平成28年12月8日(木)

午前10時00分～11時50分

南丹市八木公民館 集会室1・2

出席

富田委員長、松尾副委員長、小南副委員長、城内委員、坂本委員、船越委員、三宅委員、川勝委員

南丹市教育委員会 社会教育課 寺田課長、大塚係長、岩嶽主任、人羅主事、垣村社教主事

欠席

田丸委員

*傍聴者1人

1 開会

2 寺田課長あいさつ

日に日に寒く、またお忙しい中出席いただいた。日頃は社会教育行政への協力と力添えをいただき感謝している。

夏は大きな災害も無く、無事終わる事ができた。今後も災害に対する対策を進めて行く。4月に子育て新制度が始まり、放課後児童クラブもその中枢である。今後受け入れを、本年度は4年生まで、次年度は5年生まで、平成30年度には6年生まで拡大する中、児童の増加に対して場所の変更を検討する。次年度は胡麻こども館から新設したどんぐり放課後児童クラブへと変更する。また来年度の開設に向けて、審議をしていただきたい。安心安全をモットーに緊張感を持って取り組んでいきたい。子どもたちが主体的に活動できるような、放課後児童クラブにしていきたい。

会議後は放課後児童クラブへ移動し、現場を見ていただく予定である。

協議を活発に行っていただきたい。

3 運営委員紹介

・委員名簿のとおり

4 委員長・副委員長選出

選出方法 互選

- ・ 委員長 富田陽子
- ・ 副委員長 松尾武治、小南久仁子

5 協議内容

放課後児童クラブとは

- ・ 資料のとおり

放課後児童クラブの生活

- ・ 資料のとおり

放課後児童支援員の役割

- ・ 複数体制で勤務体制を組んでいる。人数の多いところでは 1 日に 8 人支援員を配置している。
- ・ 府主催の支援員認定資格研修へ昨年度 8 人、今年度 5 人が受講を終えており、計 13 人の資格保持者がいる。資格保持者がクラブに 1 人いれば、その他支援員は未受講者も支援員補助者として運営することができる。
- ・ 国が示す内容の研修を受けることで支援員として求められる知識や技能が身につく。

平成 28 年度南丹市放課後児童クラブ開設状況

- ・ 事業概要 資料どおり 4 年生の預かりを実施し、高学年預かりが本格的に始まった。
- ・ 対象児童 資料どおり
- ・ 開設場所 今後の児童クラブ入部児童の増加に対応するため、ハード面の整備を始めている。本年は胡麻どんぐり放課後児童クラブの新設を進めている。
- ・ 開設日数 22 年度から土曜日の開設を始めている。園部地区では、たんぼぼ、こすもすの預かりを合同で開設。多い時には 10 人出席となるなど土曜日預かりが定着してきた。八木、日吉でも保護者の就労に合わせて毎週ではないが複数クラブを合同により開設している。子どもたちは平日に加え、土曜日にも家庭で過ごす時間が減っている状況。
- ・ 開設日・時間 本年から時間延長を実施している。
開設しない日 保護者からお盆の期間、年末年始に開設の要望は今のところ無し。
- ・ 入部児童数 入所が必要な場合、可能な範囲で受入を随時行い待機児童はない状態。夏休みが終わり、今は家族の入院に係る付添期間の預かり希望や、家庭自身に支援の必要なケースの預かりが増えている。様々な配慮が必要な児童については、子育て支援課や保健師とも連携しながら対応している。

- ・障がいがある等、特別な事情による高学年預かりについて、今年度は無し。
- ・4月から11月までの利用者数の資料を付けている。クラブごとにひと月のうち、1日でも出席した児童の数字を記載している。
- ・支援員体制 資料どおり クラブによって違うが、人数が多いところでは概ねひとりの支援員が10人前後の子どもを常にみている状態。また、発達に課題のある児童や家庭の環境等で集団の中にどうしても入れない児童がいる場合には支援員が個別に付き、保育室内外で落ち着いて過ごせる場を見つけ、一緒に過ごすよう配慮している。
支援員の雇用は、半年ごとに臨時職員の契約を市と結ぶ形。子どもたちの授業が終わる時間に合わせて出勤している。定期的な支援員と学校との連携会議や、子どもに心配な面が顕著に見られる場合等は、学校に連絡させていただき、担任の先生方に児童クラブでの子どもの様子を伝え、学校でどう対応されているか話を聞かせていただくことも行っている。子どもの中には、市の発達支援センターで作業療法等を受けている子、花ノ木医療福祉センターへ受診している子もいる。保護者を通して各機関とも連携をとり、児童クラブという集団の中での子どもの過ごし方を情報提供し、より過ごしやすい環境になるよう、サポートを受けているケースもある。また、虐待に関する対応については、毎月のケース進行管理や個別のケース会議にも出席する等、子育て支援課の担当と連携している。
- ・支援員研修 今年度支援員研修を積極的に進めている。年度当初の4月や夏休み前には新規採用者研修を行っている。支援員としての業務内容や児童対応等の細かな配慮事項を伝えている。支援員全体研修も回数を増やし年5回実施する予定である。あわせて、各クラブの代表が集まり、クラブ間の情報共有を行う会議、クラブを超えた支援員の交流を行い、他クラブでの運営を学び合っている。入部児童の人数や環境に違いがあっても対応できるよう研修を積んでいる。京都府による認定支援員研修へも要件を満たす者から順番に受講している。
- ・保護者負担金 F階層が約50%、A・B・C・D・Eがそれぞれが10%前後となっている。

平成29年度南丹市放課後児童クラブ開設予定

- ・小学1年生から5年生までを預かりの対象とする。
今後、年次的に対象児童を拡大していく。30年度は全小学生児童を対象とする。
- ・胡麻どんぐり放課後児童クラブの新設工事を進めており、新施設の使用開始を予定している。
- ・入部希望者説明会を11月後半から12月にかけて開催した。新1年生や2～5年生の新規希望者には必ず参加して児童クラブの主旨や目的をご理解いただき、申込手続きを説明している。

- ・12月6日からの二週間を受付期間とし、社会教育課で受付を始めている。
- ・申込書内容が要件を満たしているか審査を行い、2月初めに可否の通知を送付予定。
- ・入部が決定された方は再度、3月に入部決定者説明会に出席いただく。その場で、より具体的な利用方法や支援員との顔合わせを行う。
- ・入部が決定した児童の情報を就学前に在籍する保育所や関係機関より情報提供してもらう。
- ・新年度4月1日より希望があれば入学式前の新1年生も利用できる。
- ・在籍校の計画にもよるが新年度開設予定日数は289日の予定。

その他

- ・特になし

質問事項、意見

(委員) 前年度の委員会での“保護者を多く入れる様に”との提言は

(事務局) 今後委員を増やす事を検討する

(委員) 保護者の声を聞くことが大切である。途中で委員を入れることも検討が必要。「放課後子どもプラン」を念頭に置いて仕事をしていただきたい。承知はしているか。

(事務局) いわゆる「小学1年生の壁」に取り組んでいく。28、29年度の事業で検討していく。

(委員) 学校の授業終了に合わせて出勤していると聞く。子どもが来るための準備に時間がかかるため、余裕のある勤務出勤を。また、サービス出勤の改善に取り組んでいただきたい。たんぼぼでは、子どもの送迎に1時間かかっている。子どもが過ごすための環境はいいが、保護者は送迎が大変な状況。近くに設置して欲しいという意見も多い。保護者の声を聞く場を作って欲しい。また、賃金が下がったと聞いている。今の時代に賃金カットはありえない。支援員の待遇の改善を。できるだけ優秀な人材に集まってもらう事。

(委員) 周りに身内がない中、預かってもらい大変助かっている。任期が1年であり、4月からだが、会議の開催が今でよかったのか。保護者の代表が少なく感じる。同じ支援員が長年やっていただけると、安心して預けられる。

(委員) 申し込みがあれば受け付けると言っているが、定員の根拠は。定員を超えると安全が確保できないのではないか。たんぼぼの利用者が少ないのは使いづらいという事ではないのか。定住促進に相反する。保護者のニーズにあった放課後児童クラブを。

(委員) 長年運営委員をしており、時間の延長など少しずつ改善している。場所の問題も

あると思うが、私達も気づいたことは委員として声に出すので改善につなげてほしい。

(委員) 以前は小学校の体育館の上で開設しており、30名で活動していた。木崎にあった時は近かったかもしれないが、遊び場に行くときなど、道路を横断しなければならないなど危険だった。子どもの生活を考えるとしたら、摩気は施設として申し分ない。一方保護者から送迎の問題が出ているなら、送迎の方法を考えるべきでは。

(事務局) できる環境、何らかの改善はないかと検討しているところ。市の子育てプランにも書かれている。色々な意見をいただきながら、具体的なところから進めていきたい。

(委員) 利用していない人へのアンケートは。利用しない理由はハード面なのかどうか確認したのか。

(事務局) 今年度は実施していない。昨年度時間の延長や対象学年の調査を行った。

(委員) アンケートでは何がわかったのか。

(事務局) 学年拡大の要望、以前の場所についての意見

(委員) 近くでの開設についての事に触れていない調査では、意味がない

(委員) 議会の対応はどうしてもらっているのか。

(委員) 請願書が提出されたが、主旨採択であった。園部の議員の反対が多かった。たんぼぼで保護者に行ったアンケートでは近くで開催して欲しい人が40人中37人であった。

(委員) 教育委員会が行ったアンケートは市内全域で行ったのか。

(事務局) 市内全域である。

(委員) 学校と支援員が連携している。悪いことをしたらしっかりと叱ってくれる。宿題を早くする習慣がついた。施設の近くにグラウンドがあるからいいが、八木の北地区の人達は送迎が大変かもしれない。

(事務局) 宿題については、正誤は答えない。家庭で見てもらっている。神吉などの遠方の方にも時間をかけて迎えに来ていただいている。

(委員) 学校とよく連携をとっていただいている。迎えにも学校まで来ていただき、その際に情報交換する連携が取れている。また安全に送っていただいております、子ども達が大変お世話になっている。

(委員) 学校敷地内での開設をしている。一斉下校の時に支援員がいてもらい手厚い。学校の職員が保育室を訪れるなど、連携が取れている。支援員は早く来て、しっかり準備していただいている。有難いばかりだ。

(委員) 特別な支援のいる子が多い。学校の職員も児童クラブを訪れて、連携が取れている。密接に関わることができている。有難いと思っている。

(委員) 全部のクラブが連携しているのか。

(事務局) 全てのクラブで行っている。学校との情報交換の会議の他、迎えに行ったときなどにも連携している。

(委員) 学校とクラブ、家庭で子どもは見せる様子、顔が違う。支援員は支援を要するケ

ースへも、丁寧に子どもや、保護者の様子をしっかりと見ていただいている。要保護児童対策協議会の対応も、支援員と子育て支援課で直接情報共有を行っている。今後とも連携していきたい。

(委員) 保護者の事を第1に考えるべき。保護者負担を減らせるように。送迎となると待機する場所も必要。市の都合で移動したものだ。基本からずれないように。間違っている事に合わせていく事が間違い。

(委員) 定住を考えると新設も考慮すべき。

6 八木せきれい東放課後児童クラブ見学

古いが耐震はどうなっているのか。

低学年、高学年別の学習の部屋があるのは良い。

プレイルームがあってよい。近くに運動場があるのもよい。

トイレが和式のみはどうか。今の子どもは洋式対応ではないか。検討して欲しい。

7 閉会挨拶

富田委員長さんのもとで、全員が発言するという素晴らしい進行だった。今後も意識を持って、放課後児童クラブを考えていって欲しい。次回の会議は3月だが、よろしく願いしたい。

以上